

「油注がれた ダビデ」

2026.1.28

聖書に学ぶ 31

I サムエル記 16:1～23

I サムエル記 16 章はイスラエルの歴史の中でも、非常に重要な転換点となる場面です。主なる神様に忠実に従い、主に愛された霊の人ダビデの登場です。特に今回は、サウル王からダビデへ、油注ぎが移り変わる様子が描かれています。

主はその心をご自分と全く一つの者を探しておられ、見つけられたのです。(歴代下 16:9) 末子でまだ少年のダビデ。羊と共に野原を行く彼の光る心に、主は目を止められました。

今日の学びの要点

人間は外側の容姿で人を判断しやすいところがあります。サウルは人々が王を求めたことから、人々のために立てられた王でした。しかし、ダビデは人々が求めた王ではなく、人には見えない心を見られる主なる神が、ご自分のために立てた王でした。

I、神の選びと、人の見るところ

(I サムエル記 16:1～12)

1、主は次の王になる者を見つけました。サムエルは使命を果たすためどのようにしたのでしょうか。

①先回のサウルの歩みを見てみましょう。サウルは主から退けられました。

- ・ 15:15～24・・・アマレク人との戦いで、人を恐れ、神様に従わなかった。
- ・ 15:26～28・・・イスラエルの王位から退けると、サムエルに告げられた。

②サウルは主に退けられましたが、現実では、サウルが王です。

サムエルはどうしましたか。(I サムエル記 16:1～3)

2、サムエルが油を注ぐのは2回目です。民の求めによりサウルに油注いだ時の基準は、どのような事だったのでしょうか。(I サムエル記 9～10 章)

- ・ 家系
- ・ 容姿
- ・ くじに当たった
- ・ その後、神の霊が注がれた (I サムエル記 10:6)
- ・ サウルは、預言者サムエルによって神のみこころを知る。

3、サムエルがエッサイの息子たちの外見を見たとき、主は何と言われたのでしょうか。（Ⅰサムエル記 16:6～7）

Ⅱ、選ばれ、油注がれたダビデ （Ⅰサムエル記 16:8～13）

1、7 人の息子たちがサムエルの前を通りましたが、主が選ばれた者はいませんでした。エッサイにはもう 1 人子どもがいました。

①父エッサイはダビデをどのように思っていたのでしょうか。（Ⅰサムエル記 16:5～12）

- ・末の子 ・羊を飼っている
- ・彼の名前(ダビデ)はここに出てこない。

②主が選ばれたダビデはどのような人でしたか。（Ⅰサムエル記 16:12、18、詩篇 23 編）

2、サムエルはこの一連の出来事の中で、ダビデに油注ぎをした理由を誰にも話していません。なぜでしょうか。（Ⅰサムエル記 16:13）

Ⅲ、サウルとダビデの出会い （Ⅰサムエル記 16:14～23）

1、神はご自身の目的のために、悪霊が働くことも許されます。
主がわざわざの霊がサウルに働くことによって、何が変わって行ったのでしょうか。

2、どうして、サウル王にわざわざの霊が働くようになってしまったのでしょうか。（Ⅰサムエル記 16:14、マタイ 12:43～45）